

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第55号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021



国際医療センターのスタッフたち

未来医療開発部 国際医療センター

開設2年目を迎えた「国際医療センター (Center for Global Health)」が、平成26年3月に完成した最先端医療イノベーションセンター棟4階に移転し、5月より新しいスタートを切りました。

「国際医療センター」が目指すのは、医療の国際化に対応した「全地球的な健康の促進」。海外からの外国人患者の受け入れ、外国人医療従事者の研修、日本の優れた医薬品・医療機器・医療サービスの

先進の医療・サービスで 世界に貢献

海外展開、国際医療を担うメデイカル・イノベーション人材の育成に取り組んでいます。

「2013年度は、アジア・ヨーロッパ・南北アメリカなど広い地域から、50名の外国人患者を受け入れ、中でも中東諸国やロシアを含むアジアからの患者が最も多いです」と中田研・副センター長。現在、国際医療の推進に欠かせない「多言語化」を進めており、阪大外国語学部の協力も得て、本院の案内文書や同意書などの重要書類を9カ国語に翻訳しました。

また十分な理解のもと安全な診療を行うため、外国人患者の病歴・症状・診断・治療方針などを正確に伝えられる、プロの医療通訳者の確保・育成も重要な課題です。外国人医療に実績のある「りんくう総合医療センター」をはじめ、阪大のグローバルコラボレーションセンターや医療通訳士協議会と協力体制をとり、医療通訳士の認証制度や、報酬・労働環境なども含めたシステムを構築できるよう厚生労働省などとも連携しています。

今後多くの外国人患者

最先端医療の実現に取り組む未来医療開発部のスタッフ



最先端医療イノベーションセンター棟竣工

外国人医療従事者の研修では、2013年度は東南アジアを中心に、185名の医師や看護師、技師などを受け入れられました。世界が注目する本院の先進医療や、国民皆保険制度など日本の医療システム、リスクマネジメントなどの病院運営を学べる医療研修プログラムで、日本の医療の素晴らしき点を求める国に伝えたいと思っ

「国立大学法人の病院が国際医療を専門とするセンターを持ち、アクティブに活躍している例は少ない。国内の患者さんのみならず、海外から本院を選び来院する患者さんにも良質な医療を提供し、世界の健康推進に貢献したい」と、澤芳樹センター長はじめスタッフ一同、強い意欲を示しています。

「ひとつ屋根の下」で最先端医療開発

現代社会はさまざま医療課題に直面し、再生医療などの推進をはじめ、革新的な医薬品・医療機器などの開発・実用化が求められています。本院は、医療技術のさらなる融合や産業化をめざし、基礎研究から臨床応用までをシームレスにつなぐ総合拠点として「最先端医療イノベーションセンター棟」を3月に竣工しました。強力な産学官連携体制のもと、大学や企業、異分野の研究者が「ひとつ屋根の下」に集まり、医療のオーブンイノベーション(組織・分野の枠組みを越え画期的な成果を導くこと)に取り組んでいます。

このイノベーションセンター棟は、地下1階から地上9階に最新の教育・研究環境を備えた複合施設です。6、9階は経済産業省補助金事業の産学連携フロア(研究開発部門)で、「現在、寄附講座も含めた企業との共同研究が30も稼働し、同じ施設内で研究者と企業が密接に協力することで、新しい医療の開発に弾みが付き始めています」と、澤芳樹未来医療開発部長。

4階は病院フロアで、未来医療開発部(未来医療センター・国際データセンター・国際医療センター)と、中央診療施設の移植医療部が世界を視野に活動しています。未来医療センターは、医療シームレス(革新的医療研究の種)の発掘から探索的臨床研究、治験までの一貫したマネジメントにより、医療の実用化を強力にサポートします。開設10年を経て、臨床レベルもモチベーションも高い医師が各診療科の分野を越え、結果として取り組んできた「橋渡し研究」の効果が現れてきています。例えば、拡張型心筋症の患者さんの心筋機能を再生する「細胞シート」は、医学と工学の融合による先進医療です。企業治験が終了し、近く保険適用となる見込みで、国際医療センターと連携して世界からも多くの患者さんを受け入れる予定です。また、地球規模で求められているマリアワチンの開発も順調で、有効性・安全性を確認し製品化されれば国際的な医療貢献につながります。そして、データセンターでは、そのような臨床研究に関する患者さんのデータなどを独立して客観的に統計解析し管理します。

また移植医療部は創設10周年を迎えました(裏面ミニニュース参照)。全ての臓器移植の実績がある全国唯一の施設であり、心臓同時移植や小児(11歳未満)の移植なども可能です。すでに1000例以上の移植が実施され、医療技術や実績も含めて日本最大の拠点となっています。しかし移植医療は、ドナー不足により日本では普遍的医療に至っておらず、移植の重要性に対する認識を深める啓発活動などにも力を入れています。専門の医師はもちろん、日本には数少ない移植コーディネーターなどの人材育成にも努めています。1、2階の医学部フロアには、医学部生のための基礎医学の大実習室や、研修医・看護師も利用できる点滴などのシミュレーションセンターなども備え、基礎医学知識・技術だけでなく、新しい医療への挑戦を含めた実学的な学びの機会を提供しています。「このイノベーションセンター棟が、多様な分野の医師や学生が集まって最先端医療を推進・実現し、本院の元気の源といえるような施設になることを願っています」と、澤部長は熱く語っています。

外来者用駐車場料金を改定しました

このたび、下記のとおり外来駐車場料金の改定を行いましたので、何卒ご理解ご協力方よろしくお願いたします。

	改定前	改定後		
外来患者	当日診療を受けられた方は無料	診療当日 1回 300円		
入院患者	入退院日当日の送迎用の車に限り無料	入退院日当日の送迎用の車に限り無料		
お見舞い等	最初の30分	無料	最初の3時間	300円
	～1時間	200円		
	～2時間	400円		
	～3時間	600円	～4時間	400円
	～4時間	800円	～5時間	500円
	～5時間	1,000円	～6時間	600円
	～6時間	1,200円	～7時間	700円
	～7時間	1,400円	～8時間	800円
	～8時間	1,600円	～9時間	900円
	8時間～	2,000円	9時間～	1,000円
	翌朝7時以降 2,000円 + 翌日料金加算	翌朝7時以降 1,000円 + 翌日料金加算		

【改定日】平成26年7月1日(火)

ホスピタルミニニュース HOSPITAL MINI NEWS



7/4 セタコンサート

改修工事で騒音などご迷惑おかけします

本院は竣工から約20年が経過しました。施設の老朽化のため各所で改修工事を行っています。工事中は、騒音・振動が発生し、工事を行う上下階等にも影響があります。大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

移植医療部10周年記念講演会開催

6月28日、リーガロイヤルホテルで移植医療部10周年記念講演会・公開シンポジウムが開催されました。移植医療部は2003年の創設から、臓器移植に関わる多数の診療科が連携し、脳死臓器移植件数100件以上、総臓器移植件数1000件以上を達成するなど、院内にとどまらずわが国の移植医療の推進に関わってきました。本会では、澤芳樹部長らの講演に続いて、患者参加型の公開シンポジウムを開き、移植者のQOL(生活の質)について討論を行いました。その後の懇親会では、医療関係者や患者さんとご家族あわせて250名ほどの参加者の間で和やかな会話が弾みました。

阪大病院を見学してみませんか

本院では、下記のとおり見学会を開催いたします。普段は接することのできない場所の見学や最先端の医療に触れるチャンスですので、お気軽にご参加くださるようご案内いたします。

- 実施日時 9月24日(水) 13時30分～16時30分
- 申込期限 9月3日(水) 必着
- 対象者 一般市民(成人、個人)
- 募集人員 15人
- 申込方法 必要事項(①氏名②性別③年齢④郵便番号⑤住所⑥電話番号⑦あなたが阪大病院に抱くイメージ⑧見学を希望する理由)を明記のうえ、はがき、FAXまたは電子メールによりお申込みください。必要事項に不備がありますと、こちらから連絡できないことがありますのでご注意ください。(※皆様の個人情報、本見学会に関する用途以外には使用いたしません)
- 見学場所 ドクターヘリ、未来医療開発部など(※都合により見学場所が変更になる場合があります)
- 送付先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15
- 問合せ先 大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係 TEL 06(6879)5020,5021 FAX 06(6879)5019 (※非通知設定のTEL/FAXからは頭に186をつけておかけください)
- E-mail ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp
- 決定通知 応募者多数の場合は抽選により決定し、参加の可否をはがきでお知らせします。
- 注意事項 見学では、かなりの距離を歩きます。階段の昇り降り等もありますので、歩きやすい靴でお越し下さい。



「納涼大会」でパフォーマンスを行う看護学生さん

神経科・精神科は、統合失調症や、大きな社会問題ともなっているうつ病などの気分障害、超高齢社会を迎えて増加する認知症、過剰なストレスに起因するパニック障害などの神経症といった、幅広い神経疾患の診療に取り組んでいます。そして一般外来のほかに統合失調症専門外来、思春期青年期専門外来などの専門外来を設け、重点的な診断と治療を実施しています。また内科をはじめ他の診療科と連携し、身体疾患、あるいは身体疾患による精神的負荷が原因の精神科的合併症などにも対応しています。

認知症については、MSE(認知症スクリーニングテスト)などの記憶検査、BAD(前頭葉機能評価)などを含む神経心理学的評価、そしてMRI及び脳血流SPECTによる脳機能画像診断を踏まえて、症例検討会で十分な検討を行っています。研究面でも、脳科学研究戦略推進プログラム(文部科学省)に参画し、アルツハイマー病のバイオマーカー(特定の病状や状態を把握するための指標)開発に取り組んでいます。アルツハイマー病は、認知機能評価と画像による診断が一般的ですが、さらに脳脊髄液中の特定物質の増減も診断に用いられます。しかし脳脊髄液の採取には痛みもあるので、より簡便な血液検査による診断の研究が当科にて進められています。血液検査による診断が確立すれば早期にアルツハイマー病を発見でき、現在各国で開発が進められている根本治療薬とあわせれば、発症を防いだり遅らせたりにすることができると考えられます。症状が最も重篤に見える統合失調症については、PANSS(陽性・陰性症状評価尺度)などに基づく症状評価などを行い、通常の薬剤の投与で症状改善が見られない難治性統合失調症の患者さんに対しては、厳密な適正使用と十分な血液検査管理が必要な「クロザリル」による治療なども行っています。さらに、重度の気分障害や難治性統合失調症に対しては、修正型電気痙攣療法(mECT)を実施しています。このmECTは、電気刺激により人工的な痙攣を起こし脳の機能を改善しようとするもので、麻酔科と連携して行うため安全性も高く、適合する患者さんには非常に効果の高い治療法です。

神経科・精神科

うつ病から認知症まで 幅広く診療専門外来設け 身体科などと連携も

ほかに、一般病院では受け入れが難しい摂食障害の患者さんへの入院治療や、運転中の大事故にもつながる睡眠障害(睡眠時無呼吸症候群、強い眠気の発作など)に対して1泊入院による終夜脳波検査も行っていきます。また、身体疾患を持つ入院患者さんに精神的問題が生じた場合は相談に応じ、必要に応じて精神科医

「どの診療科で診てもらえばいいの？」



総合診療部のスタッフ

専門診療科の壁越え 患者さんと向き合う

総合診療部

本院の総合診療部では、診断がついておらず、適切な専門診療科がわからない患者さんの診察を行っています。複数の症状があったり、複数の疾患が疑われたりするために、複数の専門診療科の先生のご紹介を受けるケースや、専門診療科の先生のご専門から外れた病態について、紹介をいただく場合もあります。本院の診療科は、内科系だけでなく循環器内科、腎臓内科、消化器内科など9つの専門診療科があります。例えば「内科担当医」宛ての紹介状を持ってこられた場合、患者さんがどの科を受診したらよいか、わからないことがありません。このようないか、わからないこと紹介状をお持ちの場合、まず受付で紹介状を見ながら症状をお聞きし、専門診療科の受診が適切と判断されれば、そちらを紹介いたします。それ以外の患者さんには総合診療部を受診していただきます。受診していただきます。診察は、鈴木宏実部長(副病院長)をはじめとした医師が月曜から金曜まで毎日、交代で行います。受診者数は1日5〜10人程度。1カ月で約100人の初診患者さんが訪れます。総合診療部に来られる患者さんの特性上、一人あたりの診察時間は長くなっており、当部では、全人的・包括的な医療を心がけるとともに、診療科の壁を越えて患者さんと向き合う診療を心がけております。地域の医療機関では判断が難しい、難しい症状の患者さんが紹介されてくることもありますが、きめ細かな問診と診察による、的確な診断に努めております。診断後には、最先端の医療を行う大学病院ならではの治療へとつなげることが可能です。一方で、患者さんの居住地の医療機関と連携し、地元で負担の少ない治療を受けられるような提案を行う場合もあります。また大学病院は、医学生・医師を育成する教育機関としての責任も担っています。当部での実践を中心とした取り組みは「地域に生かす世界に伸びる総合診療医療養成事業」超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成事業」として、昨年度に文部科学省の「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に採択されました。当部では、これからの地域と時代のニーズに合わせ、幅広い領域の疾病に対応する「総合診療」を担える専門医の養成に努めてまいります。

新診療科長ごあいさつ

●小児外科長
おくやま ひろおみ
奥山 宏臣

小児外科は、新生児から15歳までを対象とした外科診療を担当しています。鼠径ヘルニア・急性虫垂炎・腸重積症などの日常よくみられる疾患から、食道閉鎖症・横隔膜ヘルニア・胆道閉鎖症・ヒルシュスプルング病・鎖肛・先天性肺疾患といった専門性の高い疾患まで、幅広い診療を行っています。さらに大学病院の機能を活用して、小児がんに対する集学的治療や臓器移植といった先進医療にも取り組んでまいりました。また最近では、内視鏡外科手術を積極的に取り入れ、体に負担の少ない治療を目指しています。

(平成26年7月1日就任)

本院の診療科は、内科系だけでなく循環器内科、腎臓内科、消化器内科など9つの専門診療科があります。例えば「内科担当医」宛ての紹介状を持ってこられた場合、患者さんがどの科を受診したらよいか、わからないことがありません。このようないか、わからないこと紹介状をお持ちの場合、まず受付で紹介状を見ながら症状をお聞きし、専門診療科の受診が適切と判断されれば、そちらを紹介いたします。それ以外の患者さんには総合診療部を受診していただきます。受診していただきます。診察は、鈴木宏実部長(副病院長)をはじめとした医師が月曜から金曜まで毎日、交代で行います。受診者数は1日5〜10人程度。1カ月で約100人の初診患者さんが訪れます。総合診療部に来られる患者さんの特性上、一人あたりの診察時間は長くなっており、当部では、全人的・包括的な医療を心がけるとともに、診療科の壁を越えて患者さんと向き合う診療を心がけております。地域の医療機関では判断が難しい、難しい症状の患者さんが紹介されてくることもありますが、きめ細かな問診と診察による、的確な診断に努めております。診断後には、最先端の医療を行う大学病院ならではの治療へとつなげることが可能です。一方で、患者さんの居住地の医療機関と連携し、地元で負担の少ない治療を受けられるような提案を行う場合もあります。また大学病院は、医学生・医師を育成する教育機関としての責任も担っています。当部での実践を中心とした取り組みは「地域に生かす世界に伸びる総合診療医療養成事業」超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成事業」として、昨年度に文部科学省の「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に採択されました。当部では、これからの地域と時代のニーズに合わせ、幅広い領域の疾病に対応する「総合診療」を担える専門医の養成に努めてまいります。